

尿沈渣中に見られたヘマトイジン結晶の一症例報告

◎村松 純一¹⁾、久保田 靖也¹⁾、望月 恵子¹⁾
焼津市立総合病院¹⁾

【はじめに】ヘマトイジン結晶は閉塞した腔内での大量出血に起因する結晶であり、大量出血後の赤血球崩壊によりヘモグロビンが分解し、ヘマトイジンが生成される。尿中出现する場合は、経尿道的膀胱切除術や経尿道的前立腺切除術などの外科的処置による大量出血に起因して出現する。今回我々は、尿沈渣中にてヘマトイジン結晶が見られる症例を経験したので、これを報告する。

【症例】67歳男性、2022年1月に飲酒後から尿閉を来し、他病院を受診。当院へは今後の投薬・カテーテル管理および膀胱機能評価、内視鏡手術の適否判断のため精査目的に受診。2022年3月に経尿道的前立腺切除術を実施。

【検査成績】生化学的検査 総ビリルビン 0.8mg/dl、AST 16U/L、ALT 12U/L、LD(IFCC) 140U/L、ALP(IFCC) 36U/L、CK 94U/L、CRP 0.42mg/dl

尿定性検査 尿蛋白(1+)、尿糖(-)、尿ケトン体(-)、尿URO(1+)、尿BIL(-)、尿潜血(3+)、尿白血球(3+)、尿亜硝酸塩(-)、尿比重 1.015、尿色調 黄褐色、尿混濁(+)、尿定性クレアチニン 100mg/dl、尿定性蛋白/クレアチニン

>=500mg/dl。

尿沈渣結果 尿沈渣赤血球 100以上/HPF、尿沈渣白血球 50~99/HPF、扁平上皮 1未満/HPF、 橙色の菱形結晶(1+)、赤血球形態 非糸球体赤血球。尿沈渣中に特徴的な橙色の菱形の結晶が見られ、ヘマトイジン結晶ではないかと考え確認検査を実施した。

【結果とまとめ】今回の症例では経尿道的前立腺切除術を実施しており、その後の尿検査の結果よりヘマトイジン結晶の出現条件である外科的処置による大量出血が考えられる。色調と形状、溶解試験にて塩酸に不溶、水酸化カリウム水溶液に溶解した点よりビリルビン結晶、もしくはヘマトイジン結晶と考えられる。尿ビリルビン定性(-)、血清ビリルビン、肝・胆道系酵素の値より肝・胆道系疾患が存在しないことが分かり、また尿沈渣所見にて細胞の黄染等も見られなかった点からビリルビン結晶ではないと判断した。形態も特徴的な橙色の菱形結晶であることから、当院ではヘマトイジン結晶と判断し報告した。
連絡先：054-623-3111 (2267)